

麦づくり情報(No.2)



1. 麦作況情報田の生育概況(1月21日調査)

場所	品種名		播種日	苗立数 (本/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	主稈葉数 (L)	概況
牛 津	サチホゴールド 4条播き	本年値	12/10	151	8.6	288	3.6	◎農試平年値と比較する。 (昨年度はカモ食害の影響があつたため) 草丈は平年より高い。(113%) 茎数は平年より多い。(169%) 葉令からみた生育は平年より早い。
		昨年値	12/14	(93)	—	(93)	(1.6)	
		農試本年値	12/10	—	11.1	331	3.2	
		農試平年値	12/10	—	7.6	170	1.9	
大 和	シロガネコムギ 8条播き	本年値	11/21	(50)	(11.2)	(117)	(6.3)	鳥害の影響により、苗立数が極端に少ない。 農試データの生育から 草丈は平年より高い。(166%) 茎数は平年より多い。(135%) 葉令からみた生育は平年より早い。
		平年値	11/29	147	8.8	214	3.5	
		農試本年値	11/20	—	20.2	520	5.3	
		農試平年値	11/20	—	12.2	384	4.5	

播種～1月初旬は平年より気温が高く、初期生育は良好であった。その後の1月2半旬～1月4半旬もその傾向は継続し、平均気温は平年より3.1℃高かった。降水量は20mmと平年比71%となっている。11月中下旬に播種した小麦は現在5～6葉期、12月上中旬に播種した大麦は現在3～4葉期となっており、旺盛な生育が続いている。

また、除草剤による薬害や播種深度、気象などの影響により、下葉が黄化している圃場が一部みられるが、新葉の展開に支障はなく、その後の生育は回復している。

2. 今後の管理

○追肥 ～本葉3～4葉期に実施する～

- ・施用時期の目安は、本葉3～4葉期であり、12月中旬に播種された大麦で施用されていない圃場は、早急に施肥をおこなう。

※晩播した圃場で、追肥施用分も併せて元肥に施肥した場合は追肥を施用しない。

○麦踏み・土入れ

<麦踏み>・生育が進んでいる圃場では、草姿の立ち上がりを抑えるため、麦踏みの回数を増やす。

ただし、土壌が乾燥した状態で行い、土壌が湿潤な状態では行わない。

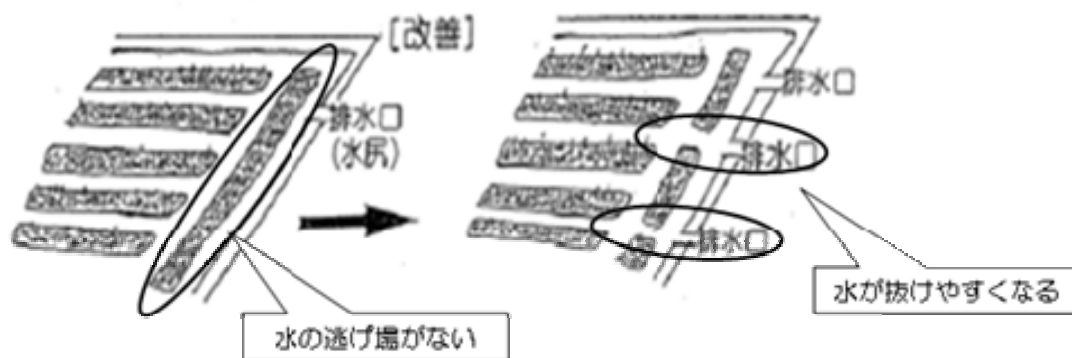
- ・麦踏みの最終時期は節間伸長開始時期～茎立期まで（草丈20～25cm程度）

<土入れ>・本葉5～6葉期から、圃場の条件をみながら計画的に実施する。

- ・分げつ初期に土入れする土の量が多いと、分げつを抑制することがあるため、基本的に土の量は、生育初期は少なめに、生育が進むにつれて量を増していくこととする。
- ・肥効を高めるため、追肥や穂肥後に行うと効果的である。

○排水対策

2月末～3月上旬の降雨が多くなる時期に備え、溝を排水口まで通すなど整備し、圃場内の水を早く排水できるように努める。



○雑草対策

雑草の発生が見られる圃場では、茎葉処理剤を施用する。現在、土壌処理剤の効果が切れてきた圃場も見られ始めているため、除草剤の処理時期を逸しないように早めに対処する。

【注意事項】

麦踏み：麦踏み前後の除草剤散布は、薬害を助長するため避ける。

土入れ：除草剤散布直後に行うと、有効成分の根部吸収が妨げられるので控える。

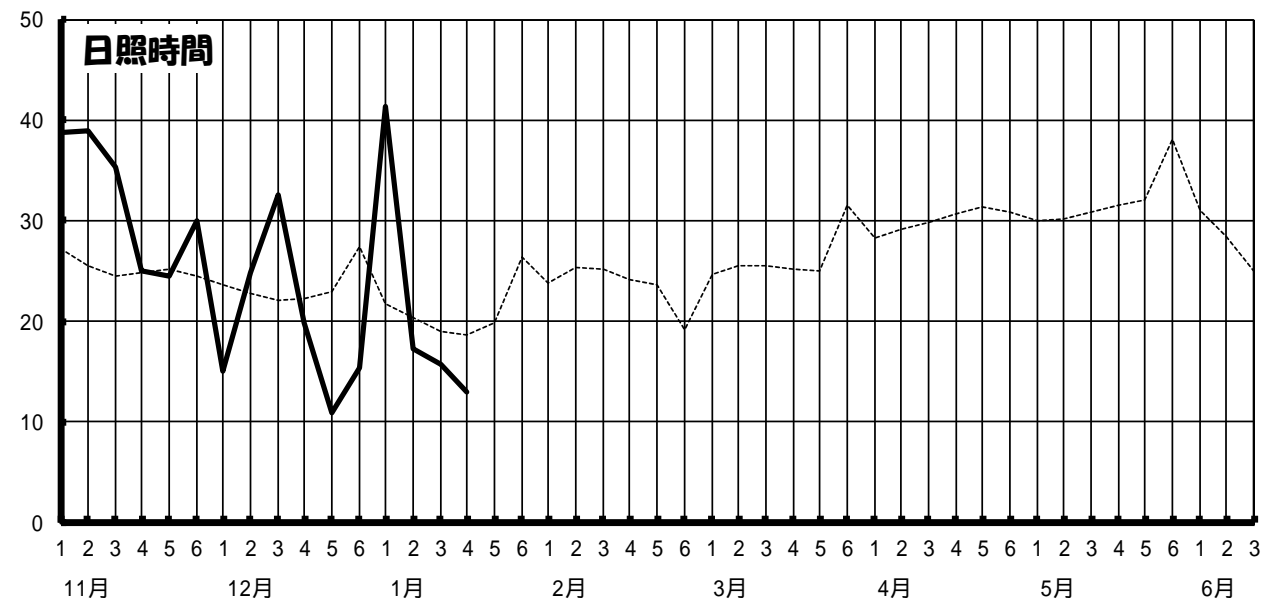
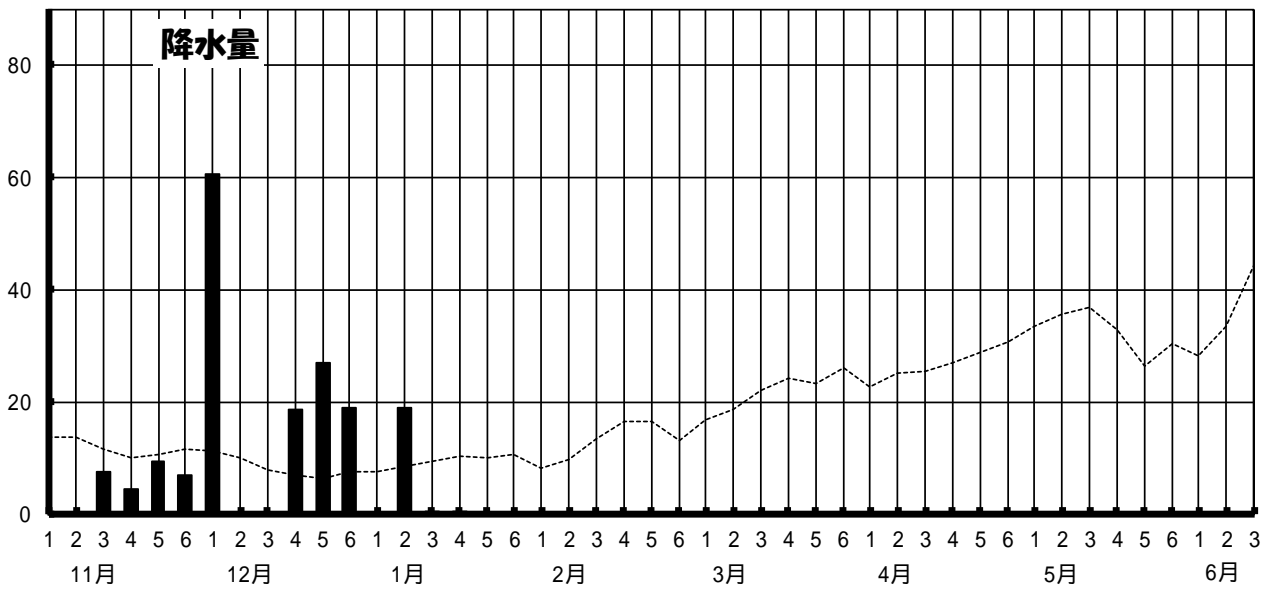
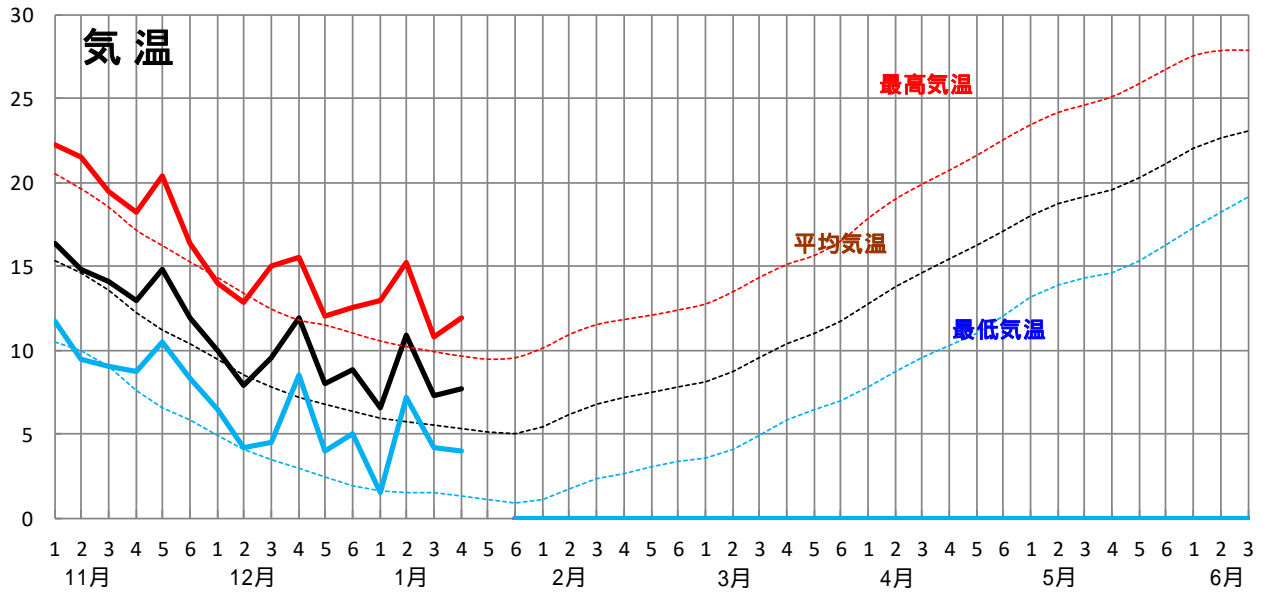
農薬名	効果のある雑草	使用量 (/10a)	希釈水量 (/10a)	使用時期	総使用回数	留意事項
ハーモニー75DF 水和剤	1年生広葉雑草 双メテポウ 加ノグサ	5～10g	100L	は種後～節間伸長前 (双メテポウ5葉期まで) (加ノグサ1～3葉期まで) ※小麦のみ は種後～穂ばらみ期まで 但し収穫45日前まで	1回以内	・加ノグサには10g/10aとし、土壌処理剤との体系処理で使用 ・周辺作物(特にタマネギ)への飛散には十分留意する
アクチノール乳剤	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100～200ml	70～100L	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	2回以内	・展着剤は使用しない ・ヤエムグラ、カラスノエンドウ、タデ類に効果が高い
エコパートフロアブル※	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	50～100ml	100L	節間伸長開始期まで (広葉2～4葉期) (ヤエムグラ2～6節期) ただし収穫45日前まで	2回以内	・薬害が出やすい ・ヤエムグラに効果が高い
バサグラン液剤	1年生雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100～200ml	70～100L	生育期(雑草3～4葉期) 小麦は収穫45日前、 大麦は収穫90日前まで	1回以内	

※薬害が生じる場合があるため、麦が生育不良の場合は使用を避ける。

2年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

佐城農業改良普及センター



グラフ中の点線は平年値